

受賞コメント

香川職業能力開発促進センター 五十嵐智彦
栃木職業能力開発促進センター 廣瀬 拓哉

このたびは、厚生労働大臣賞（入選）という、大変名誉ある賞を賜り、恐縮するとともに誠に嬉しく思っております。論文執筆に当たり、受講生の皆様はじめ、ご協力を賜りました関係各位の皆様にご心よりお礼申し上げます。

この論文では、「スキナー型プログラム学習」という教育手法を使って教材を開発し、離職者向け職業訓練での実践事例を報告しました。様々なバックグラウンドを持つ受講生が、幅広く在籍するポリテクセンターで訓練を担当するにあたって、ベテラン指導員であれば豊富な知識や経験から適切に対応することができる一方、私たちのような新人指導員が訓練を担当すると、訓練についていけない受講生が出てしまうことがありました。それは、計算や設計の授業など座学の訓練のときに特に顕著にあらわれました。訓練の説明の仕方に飛躍があったり、難しい言葉を使ってしまったことがその原因でした。

そこで私たちは、教育訓練の学習心理学について勉強し、知識や経験の乏しい新人指導員でも実践しやすい教授手法がないかを調べました。そのときに知ったのが、スキナー型プログラム学習というものです。スキナー型プログラム学習は、1960年代から70年代にかけて盛んに検証された古い教授手法で、学習を『行動』として考えるために、誰にでも取り組みやすいという特徴があります。

プログラム学習を使った教材は、訓練の進め方が演習中心となり、独特なスタイルになりますが、概ね受講生には受け入れられたように感じています。この教材を使用した訓練を実施して、いままでは演習の時間には苦勞をしていた受講生が、着実に取り組む姿を見て、新鮮な驚きを感じました。受講生自身にとっても、プログラム学習のように小さな成功体験を積み上げていくような学習方法は、次第に自信をつけられ、わからないときにはどこがわからないと言えて、さらに演習を一通り終えれば体系だった知識を効率的に得ることができるようです。プログラム学習は、地味で泥くさく旧来的な手法ではありますが、様々な教育手法を検討する中で、職業訓練において効果的な訓練手法であると考えることができました。今後もプログラム学習をはじめとする教育訓練手法について勉強していきたいと思っております。